

国は休耕田の復旧を重要課題として掲げていて、国、地方自治体、学校教育、そして我々のようなボランティアとの連携を推奨しています。今号では千葉市の職員として谷津田保全に尽力されている、國岡幸浩さんにご寄稿いただきました。

★心に残る風景、未来に残したい風景

千葉市環境保全課 自然保護対策室 國岡幸浩

原風景

初めて行く場所なのに「懐かしいな、落ち着くなあ」と感じる風景に出会ったことはありませんか？一人ひとりの心に刻まれたこの風景は一般的に「原風景」と呼ばれています。

山国から来た私の原風景は、子どもの頃に遊んだ「遠くの山々と近くの芝生畑、サトイモ畑」でした。千葉に移り住んでからは、「東京湾」と「千葉駅前」「幕張メッセ」などの「都市部」に圧倒され、暫くの間は都会生活にとっても興奮していました。しかし、千葉での生活が長くなるにつれて、ここには特有の「心に残る美しい田園風景」があることに気付きました。それが「谷津田」です。

谷津田 初体験！

「谷津田」は、台地が氷河や河川に浸食されて出来た田んぼで高低差が少ない低湿地で営まれていることが特徴です。このため山間の谷地に出来る田んぼとは異なり、田んぼと田んぼの間の段々がとても緩やかです。また、水源も河川や用水路ではなく湧水で、子どものころから谷津田を知っている千葉の人達には当たり前のことかもしれませんが、山の多い地方から来た私にはとても驚きで新鮮でした。

谷津田の成立ちと今

谷津田の風景は、他の地方から来た私でもとても心に残る風景と自然環境で、一日中ボーっと見ても癒されるし、下手な私でも美しい写真が撮れたりしますが、この美しい風景も、自然に任せるだけでは維持できません。谷津田は人の営みとともに守られ育まれてきたからです。

谷津田と人との関わりの一部を簡単に書いてみると…

- 薪や炭の材料確保（間伐や枯れ木の撤去） → ●明るく健全な雑木林（多様な植物相の再生）
- ●土地が水を蓄える力の向上 → ●湧水の安定供給 → ●昔ながらの米作り（食糧収穫）
- ●多様な生き物の復活（ホタル・カエル・鳥類）

と、こんな形で人の営みと谷津田の自然（水・植物・動物）は共に支え合って成り立っています。



しかし、近年では樹林地や谷津田での宅地開発が進行し、千葉市内に多く見られた谷津田もその半数近くが無くなってしまっています。また残された谷津田も湧水の水が一年を通して流れ込むため、機械化に適しておらず、草刈りや田植え・稲刈りなどの作業の大部分を人の力で行う必要があります。このため、高齢化や後継者不足などの問題も重なって、耕作放棄が進んでいます。耕作放棄をされた谷津田の多くは、埋め立てられて他の用途で使用されたり、放置されたまま葦や笹が繁茂し水路や湿地の乾燥が進むなど、ホタルなどの水辺の生き物には厳しい荒れた環境となってゆきます。

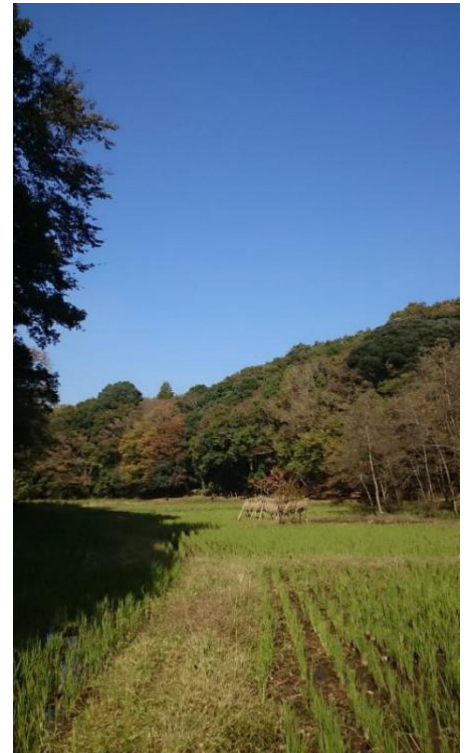
谷津田の保全に向けて

千葉市では、残された貴重な谷津田の保全の為、地権者の皆さんに協力をいただき、市内各地で保全協定の締結を進めています。

また、保全協定を結んだ谷津田のうち下和田、小山町、大草、谷当、坂月では、ボランティアの皆さんが稲作や樹林地の整備、生き物調査など、日々の営みに携わっていただく事により「谷津田」の営みと自然・風景、そこに住む多くの生き物（植物、昆虫類、両生類、爬虫類から鳥類、哺乳類まで）が守られています。

今後も、この「豊かな自然」と「心に残る美しい風景」を未来に残し、子や孫に繋げていけるよう、私たち一人ひとりが色々な形で力を出し合って息の長い活動を続けていければと考えています。

最後に「谷津田」の魅力ってなんだろうかと考えてみました。谷津田の風景を見ると、自分の原風景でもないにも関わらず、ほとんどの方が「ああ、日本の田舎の風景だなあ」と感じてしまう柔らかさというか、身も心もリラックスできる緩さではないでしょうか。今、私の中では谷津田も第二の原風景になりつつあります。皆さんの原風景はどんな風景ですか？



大草谷津田いきものの里 撮影 國岡

★成年なのに…気の早い亥出沒！

小山町の学校田んぼは12月に畦の整備を行ない表面がまっ平なため、生き物が通ると足跡が残ります。犬はもちろん、タヌキだったりイタチだったり、足跡を見つけては田んぼの訪問者に想像をはりめぐらせます。1月3日、今年初めての谷津田散策。田んぼの様子を確認しようと学校田んぼの畦に降りると、いくつもの足跡を発見。新年の訪問者はだれかなと見てみると見慣れぬ足跡！ 2つ爪の生き物、イノシシです。

近年各地で問題となっている人里へのイノシシの出沒。下和田でも目撃情報があったそうです。これまで小山町内では、稲刈り後のたんぼに泥浴した後が残っていたことが数年前にありました。また、あすみが丘の住宅地にも姿を現し、騒ぎになったこともあります。小山町から数キロ離れた山を切り開いて作られた工業団地内の空き地でのイノシシ目撃情報は頻繁にあり、くくりワナを設置しているそうです。村田川中流域の田んぼにはイノシシ除けと思われる柵もあるので、小山町にいつ出沒してもおかしくはありません。しかし、小山町がお気に入り場所となり、大好きな泥浴田んぼになってしまったら稲作どころではありません。地元の方々の田畑もあるため、農作物の食害も心配ですし、作業中に目撃されても危険です。

今のところ、足跡が残っていたのは1回、しかも複数ではなく単体だったので、頻繁にあらわれているわけではなさそうです。イノシシ対策はどの自治体も頭を悩まされているようですが、出現状況を注意深く監視し、市や地元の方と相談しながら対応していく必要があります。



里山たんけんレポート



第216回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2018年1月7日(日) 晴れ

正月の恒例、下大和田谷津の鹿島川に合流する下流部まで鳥の姿を求めながら谷津の現状把握を兼ねて巡りました。

今冬は冬鳥の渡来が極端に少ないといわれていますが冬鳥だけでなく留鳥も少ないようでした。アオジ、カシラダカは例年とあまり変わらないようでしたがツグミはわずかに1羽確認出来ただけでした。シロハラ or アカハラと思われる声も例年より少ないようでした。留鳥もヤマガラ、ホオジロなどは姿を見せませんでした。そんな中、ノスリが悠々と上空を舞ってくれ、飛翔の姿を楽しみました。結局鳥は16種を観察しました。谷津下流部は東電が高圧線の鉄塔管理のために草を刈っている部分を除いてはアズマネザサなどが進出してきていて事前に刈っておかないと立ち入れない箇所もありました。また、南側の土水路から数箇所水が谷津内に流れ込んでいて谷津内の水位が上がっていました。

(参加 大人10名、小学生1名 報告・網代春男 写真・田中正彦)



第216回 下大和田 YPP「どんど焼きと昔あそび」

2018年1月13日(土) 晴れ

どんど焼きの火付けは摩擦熱を利用した火起こしで行います。6つばかりの火起こし器に3-4人のチームで一斉にかかりました。煙はどのチームからもあがるのですがなかなか火種が付くまで至りません。火種が出来ても今度は紙に炎があがるまでまた一苦労です。無事炎があがって着火に成功しました。正月飾りやしめ縄、お札などと共に米作りでお世話になったかかしを感謝を込めて炊き上げました。野菜、餅、餡、魚などの差し入れがあり、お汁粉、汁物、焼き魚などを堪能しました。

昔あそびではベーゴマを指導、広めている方が参加し、教え方も上手で、初めて触った女性方もたちまち腕を上げ、大人12名の勝ち抜け競技を競うほどに盛り上がりました。大人が夢中になり押しやられた感がありましたが子ども達はボートレースに夢中になっていて、入賞者は竹とんぼの商品を獲得して大喜びでした。大人も子どもも大いに楽しんだ一日でした。

(参加 大人28名、小学生8名、幼児2名、 報告・写真 網代春男)



第151回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

2018年1月20日(土) 晴れ

今月も引き続き水路と畦の整備を進めています(下写真左)。休耕田からの漏水により軟化しがちであった畦に、水路を通し、竹・踏板を利用した補強を施しました(下写真中央)。あすみ田んぼでは早くもモグラ穴の漏水が発生、対処しました(下写真右)。

(参加 大人4名、報告・写真 稲富理枝)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 1月 5日 ルリビタキのオスに出会えた。(高山)
1月20日 ハクセキレイ、アオサギ飛び(たんぼぼ)
1月23日 記録的寒波来襲、10cm 超えの積雪、雪上に動物の足跡多数。(松下)
1月29日 最低気温0度以下継続5日目、たんぼに氷、厚み増す(右写真)。
ツグミ、アオジ、アオサギ飛来、シジュウカラの地鳴き。(赤シャツおやじ)



下大和田

- 1月19日 リス2頭が東屋の奥の木に現れた。(網代)
1月23日 雪の上にノウサギの足跡が土水路に沿ってずっと付いていた。(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

▼第217回下大和田 YPP

「ニホンアカガエルの卵塊観察とカウント」と谷津田の森と水辺の手入れ同時開催

冬眠から覚めて真冬にたんぼで産卵するニホンアカガエルの卵塊の観察・カウントとシイタケ、ヒラタケ、ナメコの植菌をします。

- 日時: 2018年2月18日(日) 9時45分~14時 *小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。)
集合: 現地。初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に網代(あじろ)090-2301-0413までご連絡ください。
交通: JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金は520円。
持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。
参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第218回 下大和田谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルの卵塊調査と冬鳥を観察しながら谷津を巡ります。

- 日時: 2018年3月4日(日) 9時45分~12時 ☆雨天決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)
集合: 現地9時45分 初めて参加の方はご連絡ください(同上)
持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム



画 赤シャツおやじ

▼第152回 小山町 YPP「あぜの整備」など

来年度の米づくりに備えて、たんぼのあぜの手入れをします。

- 日時: 2018年2月17日(土) 10:00~12:30、小雨決行
場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
持ち物: 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば環境情報センター

■編集後記 國岡幸浩さんの「特有の『心に残る美しい田園風景』がある」とのお話に、谷津田は多くの人に関わって、それぞれの心の風景が重なって描かれる、絵画の様だと感じました。さて、1月は記録的な寒波と低気圧の来襲で4年ぶりに10cmを超えの積雪となりました。以後、小山、土気地区は早朝氷点下の日々が継続、多くのたんぼに大人が乗っても割れない位厚く発達した氷が出現。地主様曰く、「子どものこらあ、冬にはスケートをやったよ。」と。「こんな感じか?」と再現したのは上の画の如く。谷津田はもっとも寒い季節を迎えております。(赤シャツおやじ)